

Q&A

左肝管に充満する肝腫瘍

解答：

胆管内腫瘍栓をともなう大腸癌肝転移

解説：

ERCP 検査で左肝管に充満する腫瘍の存在が疑われ、同部位に PET-CT にて FDG 集積を認めた。左肝管を主座とした肝門部領域胆管癌（胆管内発育型）の術前診断にて、肝左葉切除、肝外胆管切除、胆道再建術を施行した。切除標本では左肝管を充満する腫瘍が左右肝管合流部まで達していた (Figure 3A)。また、S4 の嚢胞内に充満する 4cm 大の黄色調腫瘍を認めた (Figure 3B)。組織学的にはともに高円柱状で杯細胞を有する癌細胞が不規則な分岐や癒合を示して増殖する中分化腺癌の所見であり、中心部は壊死をともなっていた (Figure 3C)。

病理診断では、原発性胆管癌と転移性胆管腫瘍の鑑別が問題となった。9年前の S 状結腸癌の標本は S 状結腸全周性の浅い潰瘍をともなう 2 型病変であり、高～中分化腺癌の組織像であった (Figure 4；S, Type 2, 5.2cm, tub1>tub2, pSS, int, INFb, ly1, v3, SM (-), N0：fStage II)。

HE 染色の組織像では、過去の S 状結腸癌と今回の肝腫瘍が酷似していた (Figure 5A, E)。大腸癌は、免疫染色において特徴的所見を示すことが報告されている¹²⁾。CK7 陰性かつ CK20 陽性のパターンが大腸癌肝転移の 80% に認められるのに対して、胆管癌ではわずか 8.3% と報告されており、鑑別診断に有用である¹⁾。また、腸上皮マーカー CDX2 は大腸癌の 90% 以上に陽性であるが、胆管癌の陽性率は低いことも知られており、CK7/CK20 に CDX2 を加えることで診断精度の向上が期待できる²⁾。本症例の大腸癌原発巣と肝腫瘍病変においてこれらの免疫染色を行った結果、いずれも CK7 陰性、CK20 陽性、CDX2 陽性であり (Figure 5)、胆管内腫瘍栓を呈した大腸癌肝転移の可能性が高いとの診断に至った。

大腸癌肝転移の胆管内腫瘍栓形成は 1.9～5.3% と報告されており、まれな転移形態である³⁾。本症例は Stage II の大腸癌術後 9 年を経ての再発であった点と胆管内発育を呈した点が非典型的であり、診断に苦慮した。なお、大腸癌肝転移巣切除後の補助化学療法の有効性は確立されておらず、適正に計画した臨床試験として実施するのが望ま

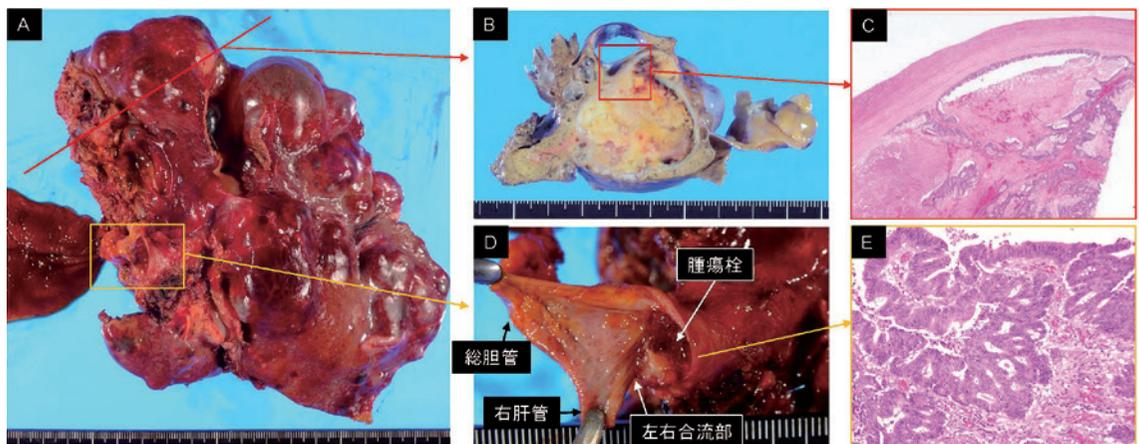


Figure 3. 肝左葉切除、肝外胆管切除標本 A) 全体写真, B) S4 嚢胞内に充満する 4cm 大の腫瘍, C) HE 染色, 壊死をともなう管状腺癌, D) 左肝管に充満する腫瘍, E) HE 染色, 中分化管状腺癌。

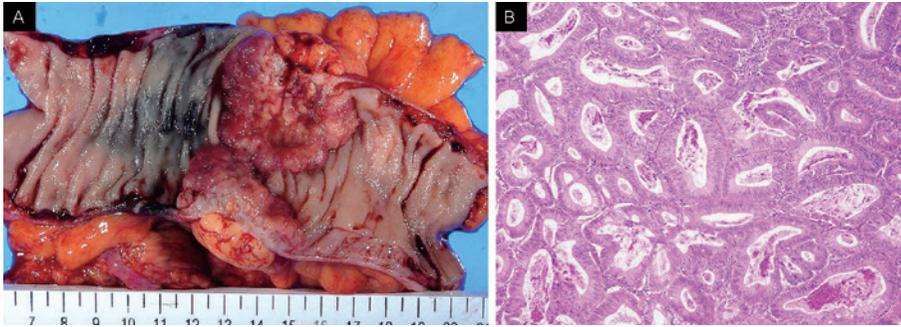


Figure 4. S状結腸切除標本 A) 全体写真, B) HE 染色, 高～中分化管状腺癌.

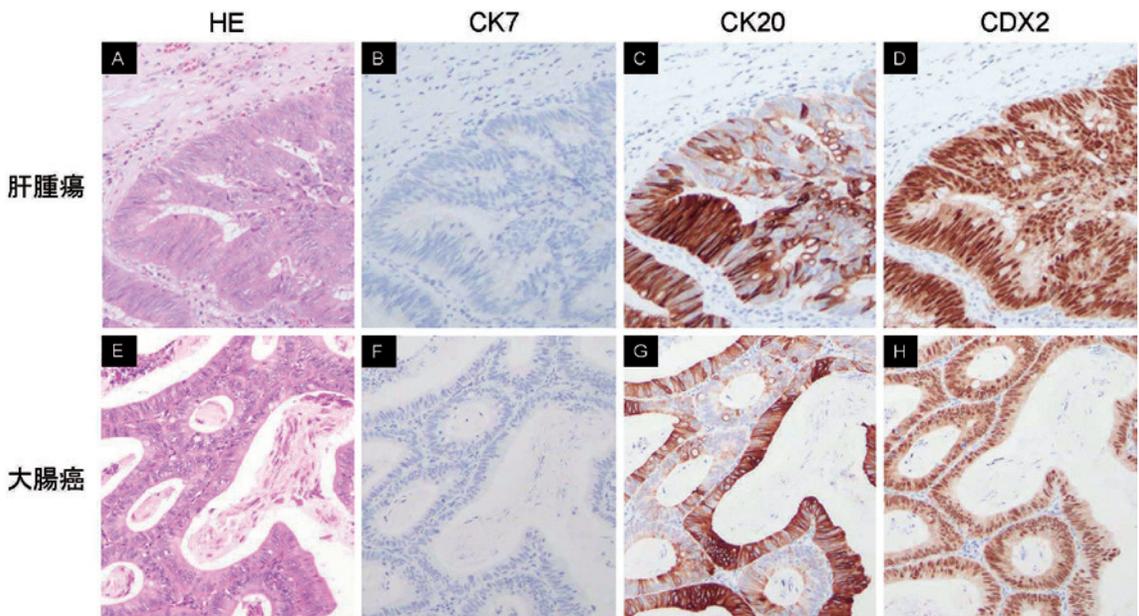


Figure 5. 肝腫瘍と既往の大腸癌組織の免疫染色による比較：(A)～(D) 肝腫瘍, (E)～(H) 大腸癌. (A, E) HE 染色, (B, F) CK7, (C, G) CK20, (D, H) CDX2.

しいとされており⁴⁾, 現在術後 mFOLFOX6 療法の優越性を検証する JCOG0603 試験などが行われている⁵⁾.

参考文献：

1) Sasaki A, Kawano K, Aramaki M, et al : Immunohistochemical expression of cytokeratins in intrahepatic cholangiocarcinoma and metastatic adenocarcinoma of the liver. J Surg

Oncol 70 ; 103-108 : 1999

2) Chiu CT, Chiang JM, Yeh TS, et al : Clinicopathological analysis of colorectal cancer liver metastasis and intrahepatic cholangiocarcinoma : are they just apples and oranges? Dig Liver Dis 40 ; 749-754 : 2008
 3) Estrella JS, Othman ML, Taggart MW, et al : Intrabiliary growth of liver metastases : clinicopathologic features, prevalence, and

outcome. Am J Surg Pathol 37 ; 1571-1579 : 2013

- 4) 大腸癌治療ガイドライン 医師用 2016年版, 大腸癌研究会編, 金原出版, 東京, 2014
- 5) Kanemitsu Y, Kato T, Shimizu Y, et al : Colorectal Cancer Study Group (CCSG) of Japan Clinical Oncology Group. A randomized phase II/III trial comparing hepatectomy followed by mFOLFOX6 with hepatectomy alone as treatment for liver metastasis from colorectal cancer : Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0603. Jpn J Clin Oncol 39 ; 406-409 : 2009

本論文内容に関連する著者の利益相反
: なし

出題 : 田中 真二 (東京医科歯科大学大学院
分子腫瘍医学)
赤星 径一 (東京医科歯科大学医学部
附属病院肝胆膵外科)
富井 翔平 (東京医科歯科大学医学部
附属病院病理部)
北川 昌伸 ()
田邊 稔 (東京医科歯科大学医学部
附属病院肝胆膵外科)